

無意識の偏見＝アンコンシャス・バイアス

アンコンシャス・バイアスとは、自分自身は気づいていない「ものの見方やとらえ方の歪みや偏り」のことをいいます。アンコンシャス・バイアスは、その人の過去の経験や知識、価値観、信念をベースに認知や判断を即時に行い、何気ない言動や行動として表れます。自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、「無意識の偏見」と呼ばれています。



！！チェックしてみよう！！

日頃、こんなことはありませんか？

あてはまる項目にチェック✓をつけてみましょう

日常生活の中で・・

- ☐ 血液型で相手の性格を想像してしまう
- ☐ 雑用は若手の仕事と決まっている
- ☐ 「普通は〇〇だ」「それって常識」とよく言う

職業のイメージとして・・

- ☐ 消防士～筋肉質で運動神経のよさそうな男性
- ☐ モデル～背が高くスタイルのよい若い男女
- ☐ 社長～年配の貫禄ある男性
- ☐ 保育士～女性の仕事

性別のイメージとして・・

- ☐ 女性にはきめ細かな感性がある
- ☐ 男性は家庭を支えるために仕事を優先すべき
- ☐ 共働きなので、子どもの看病は女性がすべき
- ☐ 家事や育児は女性が担当すべき
- ☐ 女の子のランドセルの色は「赤」
- ☐ 女子の制服はスカート

いかがですか？まだまだ項目はありますが・・

アンコンシャス・バイアスは誰の心にも存在します。
そして自覚がないことで「ささいな行動」や「日常の
ひと言」としてその思い込みは表れやすいのです。

第14回 日出町人権フェスティバル



令和5年12月2日（土）に日出町中央公民館を中心に第14回日出町人権フェスティバルを開催しました。人権作品（標語、作文、ポスター）を町内の小中学校と高等学校の児童生徒より応募いただき、町長賞、教育長賞を受賞した24名の入選者の表彰式を行いました。表彰式の後、フリーアナウンサーの海原みどりさんより「心を結ぶ言葉～私の放送現場から～」と題して講演をいただきました。日常生活で使う「言葉」が、人と人とを結びつけるということを、これまでのアナウンサーとしての経験を交えながらお話くださいました。「受け止める」「理解する」「前向きな結論」「ユーモアを交えて」など、これからの日々の生活に生かせそうなヒントがたくさんありました。

人権週間に合わせて12月10日（日）まで日出町中央公民館・日出町立図書館・交流広場HiCaLiにて作品やパネルの展示をしました。

なぜ、アンコンシャス・バイアスが生まれるの？



アンコンシャス・バイアスが生まれる原因の一つに・・

『自分にとって心地よい環境をつくる **心の中に潜むエゴ**』
があります。

- ・ 自分は間違っていないと正当化したい
 - ・ 自分をよりよく見せたい
 - ・ 自分が生活しやすい環境をつくりたい
- これらの感情は誰もが当たり前にもっているものです。
だからこそ、自覚がないケースも多いのです。

実際の悪影響として・・ほんの一例・・

- 定時で帰宅する社員は仕事を頑張っていない
- 男性が育児休暇を取得するのは責任感がないからだ
- 男の子が泣くのは恥ずかしいこと
- 女の子は料理や裁縫ができるべき
- 男の子らしい、女の子らしい服装をすべき 等々・・

性別に基づく役割や思い込みは過去の経験や知識に基づいて生まれるアンコンシャス・バイアスです。現実にはまだまだ囚われている人もたくさんいます。

対処法は・・居心地の悪さを生まないために

- ① 知る・・アンコンシャス・バイアスとは何か、知ること
 - ② 気づく・・知っていればそれに気づくことができる
 - ③ 対処する・組織などで生まれるアンコンシャス・バイアスの実態を把握し、解消に向けて対策を施す
- 「こうあるべき」という価値観をもっている人がその殻を打ち破るのは難しいでしょうが、まずは自身の心の中のアンコンシャス・バイアスへの「気づき」が重要です。

選択肢の幅を狭めたり、相手を傷つけないために



いじめをなくすために

日出町立豊岡小学校 五年 阿南 瑠莉

いじめは、やってはいけません。ですが、やってしまう人もいます。やってはいけないのに、やる人がいるのです。いじめを受けて亡くなってしまう人もいます。

そもそも、いじめとは、何なのでしょう。いじめには、相手がいやがることを、無理やりさせたり、仲間外れや無視をしたり、暴力をふるったりするなど、様々ないじめがあります。

私は、友だちから「嫌なことを言われた」と聞いたことがあります。自分の体型のことや、自分の好きな物についていじめられたと言うのです。いじめを受けた人は、とても傷つくし、わたしもそれを聞いていて腹が立ちました。他にも、そんなことを言われた人が、たくさんいると思うと、心が苦しくなります。友だちは、そのことについて、あまり深刻に悩んでいませんでしたが、すごく悩んでしまう人も、たくさんいると思います。こんなことを言ったら、相手はどう思うかを考えて、言葉を選んでほしいです。

私は、いじめがなくなる学校生活にするために、みなでお楽しみ会をして、クラスの仲を深めたり、いじめかなと思うことは、何回でもクラスで真剣に話し合ったりすることが大事だと思います。もしも、いじめられている人がいれば、相談に乗って少しでも気持ちを楽にしてあげたいです。

そして、大切なことは、私たち自身が、いじめは絶対に許さないという強い気持ちをもつことです。

「この世界から、いじめがなくなればいいと思います。」

そのために、自分ができることから始めたいと思います。



はげまされてうれしかったよ

日出町立日出小学校 二年 佐藤 史佳

わたしは、学校が大すきで、いつも友だちと楽しくすごしています。

ある日、すごく体があつくて、のどがいたい日がありました。わたしは、ふだんあまりねつをだしたことがなかったので、

「このくらい、だいじょうぶ。」

と、がまんしていました。

中休みの後、少しぼんやりしているわたしを見て、友だちが、

「だいじょうぶ？」

と聞いてくれました。わたしが、

「だいじょうぶだよ。」

と言った、

「がまんしないでいいよ。わたしがそばにいるよ。」

と言ってくれました。その時に、

「ぐあいの悪い時も友だちにそうだんしていいんだ。がまんなくていいんだ。」

と安心しました。そして、心も体もホッとしました。

今はすっかり元気になって、またみんなと楽しくすごしています。

こんどは、友だちのまねをして、わたしが友だちに、

「がまんしないでいいよ。」

と、やさしくはげましたいと思います。

